

■高山彦九郎をご存知ですか

高山彦九郎は上野国新田郡細谷村（現群馬県太田市細谷町）で生まれた、江戸時代中頃の勤王思想家で、幕末の勤王の志士たちに大きな影響を与え、明治維新を導いた人物です。

生涯を旅に過ごし、京都・江戸・郷里を拠点に全国各地を遊歴、公家・武士（大名・家老・諸藩士など）・学者（国学者・儒学者・蘭学者など）・文化人（画家・歌人・俳人など）・剣術家・神官・商人・農民など様々な階層の人々と交流、その様子を地域の歴史・地誌・習俗・民情などとともに克明な日記に記録しています。

第2次世界大戦以前は彦九郎の一側面が強調され、小学校の教科書にも載っていましたが、現在では、一部の高校日本史教科書に取り上げられているだけで、多くの人から忘れられてしまっています。

彦九郎は時代によって人物評価が著しく変わりましたが、太田市では平成5年（1993）の高山彦九郎没後200年記念事業実施を契機として、その人物像を現代的に再評価する機運が高まり、平成8年（1996）5月に太田市の施設として高山彦九郎記念館が開館しました。そして、平成9年（1997）5月には記念館を会場に彦九郎生誕250年記念事業が開催されています。